

福岡県における学力・学習状況調査結果(第6学年 9月27日実施)

本年度の全国学力・学習状況調査は、東日本大震災により問題の提供にとどまりました。福岡県では、県内全校で一斉に調査が実施されその結果が公表されたところです。本校の結果、及びその分析を通じた取組についてお知らせいたします。

＜結果について＞ 福岡市教育委員会の指導により、段階を表す言葉でお知らせします。

国語及び算数のA（主として「知識」に関する問題）、算数のB（主として「活用」に関する問題）は、「やや上回っている」。また、国語のB（主として「活用」に関する問題）については、「上回っている」という結果でした。

＜正答の状況について＞ 特に指導を必要とするところについてお知らせします。

1 国語

Aについて、対応する主語と述語の関係をつかむことや、国語辞典の使い方につまずきが見られる。また、漢字の読み等基本的な問題、相手や目的に応じて自分の考えが明確に伝わるように内容を選んで話すことに、やや課題がある。

Bについて、どの設問も福岡市平均を「上回っている」が、正答率は高くない。

2 算数

Aについて、たし算やひき算よりかけ算・わり算を先に計算する、()の中を先に計算する等の、きまりにもとづいて計算することに課題がある。また、はかりの目盛りを読むことにつまずきが見られる。

Bについて、表の見方を理解し、表から必要な情報を読み取ることに苦手な傾向がある。また、割合の考えを理解し、割合について正確に説明することに課題がある。

＜今後の取組について＞ 以下のことに重点をおいて指導していきます。

1 国語

- 文法の基礎知識を理解し、書いたり読んだりする指導を十分にする。
- 基本的な漢字の読み書きの練習を十分にさせ、日常的に文を声に出して読んだり漢字を使って文を書いたりさせる。
- 国語辞典の全体の仕組みや構成についての知識が身に付く指導をする。日常的に国語辞典を活用する機会を増やし、調べるのが習慣となるよう指導する。

2 算数

- 「計算のきまり」の意味を理解させ、具体的な場面とつないで立式したり、逆に式から場面を考えたりする学習を充実させる。
- 一目盛りが表している大きさの違いに気付いたり、大きな目盛りから小さな目盛りへと大きさを考えながら読んだりできるよう、指導を工夫する。
- 割合の考えを理解する指導に力を入れるとともに、根拠を明らかにして説明する機会を増

やす。